

幼稚園教諭・保育士課程におけるピアノ初心者への指導の取り組み
—バイエルの分析を通して—

The guidance efforts for piano begginers in the course of preschool
and nursery teachers :
Through the analysis of the Beyer

生地 加代, 山崎 智子, 伊藤 菜穂美, 大西 有紀
島 敏子, 島田 稲子, 永山 直子, 三好 一花

IKUCHI Kayo, YAMASAKI Tomoko, ITO Naomi, ONISHI Yuki
SHIMA Toshiko, SHIMADA Touko, NAGAYAMA Naoko, MIYOSHI Itsuka

武庫川女子大学 学校教育センター年報

第4号 2019年

【実践報告】

幼稚園教諭・保育士課程におけるピアノ初心者への指導の取り組み
ーバイエルの分析を通してー

The guidance efforts for piano beginners in the course of preschool
and nursery teachers :
Through the analysis of the Beyer

生地加代* 山崎智子** 伊藤菜穂美*** 大西有紀***
島 敏子*** 島田稲子*** 永山直子*** 三好一花***

IKUCHI, Kayo* YAMASAKI, Tomoko** ITO, Naomi*** ONISHI, Yuki***
SHIMA, Toshiko*** SHIMADA, Touko*** NAGAYAMA, Naoko*** MIYOSHI, Itsuka***

キーワード：ピアノ初心者 バイエル 弾き歌い

I 研究の目的

本学の教育学科及び幼児教育学科で幼稚園教諭・保育士資格の取得に必要な科目のうち、音楽に関する科目は、「教科器楽基礎」・「伴奏法と弾き歌い」・「アンサンブルと弾き歌い」「教科音楽」の4科目である。「教科音楽」では発声法など歌唱指導を中心に授業を行っており、それ以外の「教科器楽基礎」「伴奏法と弾き歌い」「アンサンブルと弾き歌い」の授業ではピアノ指導を中心に授業を行っている。そしてどの科目においても、現場で必要とされる弾き歌いや幼児の動きを促す演奏などがスムーズに行えることを目標としている。

ピアノ関連科目では、入学時よりピアノ技能に個人差があるため各個人のレベルに合わせた教則本を使用して指導を行っているのだが、最初に開講する「教科器楽基礎」を受講した学生（大学短大両方）のうち、ピアノ初心者は2016年度402人中184人(45.7%)、2017年度406人中210人(51.7%)、2018年度382人中197人(51.5%)と過去2年間では半数以上に及んでいる。石田は「ピアノ実技に取り組む新生の中にはピアノに全く触れたことのない学生も多く存在する」⁽¹⁾、また福井、別所らも「近年では入学生のうちピアノ演奏経験のない、あるいは経験年数が1~2年と少ないピアノ初心者の割合が増加傾向にあり」⁽²⁾と述べているように、ピアノ初心者が増えてきている傾向はどこの養成校でも同じようである。そして、年々増え続けるピアノ初心者現場で困らないピアノ技能をいかにして短期間で身につけさせるのか、ということが音楽担当教員の一番頭を悩ますところなのである。

現在、筆者らはピアノ初心者向けのテキストとして「バイエルピアノ教則本」（以下バイエル）を使用して指導にあたっている。養成校へのアンケート調査を行った宮脇は自著の「保育者を目指すピアノ初心者がくバイエルピアノ教則本>で学べること」で、「実際に使用している教材名を記入していただいたところ、一番多かったのはやはりくバイエル>であり、様々な教材がたくさん出版されている現代社会にあって、5割を超える使用率は驚異的と言えよう」⁽³⁾と述べているように多くの養成校が「バイエル」を教則本として使用していることがわかる。

筆者らが「バイエル」を使用して授業を行っているのは、ピアノ関連科目のなかでも学生が最初に受講する「教科器楽基礎」（大学教育学科1年後期・短大幼児教育学科1年前期）である。個人のレベルに合わせたテキストを使用した個人レッスン形式での授業であるが、それぞれのレベル（バイエ

* 教育学科教授 ** 教育学科非常勤講師 *** 教育学科元非常勤講師

ルレベル・ブルグミュラー25の練習曲レベル・ソナチネレベル・ソナタ，それ以上のレベル)で試験までに必ず習得すべき必修曲を設けている。

本稿では，初心者向け教則本「バイエル」の中で筆者らが学生に与えている必修曲に注目し，その必修曲を習得することで，次の「伴奏法と弾き歌い」に出てくる歌の伴奏やワルツ・マーチ等動きを促す演奏をする上でどのレベルまでの技能が身につくのか，また足りない技能は何なのかなどを考察し，必修曲の見直しなども含め今後の指導に役立てることを目的としている。

II 研究の方法

表1が「教科器楽基礎」のピアノ初心者を使用している「バイエルの」必修曲であり，表2が「教科器楽基礎」が合格した後に受講する「伴奏法と弾き歌い」で学生に与えている課題曲である。

表1 「教科器楽基礎」のピアノ初心者に使用するバイエル必修曲

Nos.45	48	52	53	54	55	59	60	61	62	65	66	75	76	78	81	88	91	94	95	96	97	101	
	103	105																					
*受講生に余裕のある場合に与える曲：Nos.46 49 50 51 80 100																							

表2 「伴奏法と弾き歌い」の課題曲

童謡	・おべんとう ・手をたたきましょう ・こいのぼり ・ぞうさん ・たなばたさま ・しゃぼんだま ・ありさんのおはなし ・とんぼのめがね ・どんぐりころころ ・やきいもグーチーパー ・たきび
動きを促す曲	・蜜蜂のマーチ ・スウェーデンマーチ ・夜が明けた ・RUN ・ライオンの大行進

1の現在のバイエル必修曲を習得することで，2の弾き歌い伴奏や動きを促す曲のどの部分の演奏に効果があるのか，また，逆に弾き歌い伴奏や動きを促す曲を演奏するためには，どのようなピアノ技能が必要になるのかを，運指，和音（分散和音を含む），リズム，強弱などに着目し，楽譜上で研究考察を行う。

III 結果及び考察

1. No. 45 について

C→(4/4拍子)とは，4分音符が1小節に4個入る拍子である。この曲では全音符，2分音符，4分音符，8分音符の全ての音符が提示されており，それぞれの長さが頭に入りやすい。両手共，隣り合った指を8分音符でスムーズに動くよう練習をする必要がある。

弾き歌いの伴奏では「手をたたきましょう」の右手メロディーにこの練習が役立つ。(譜例1)

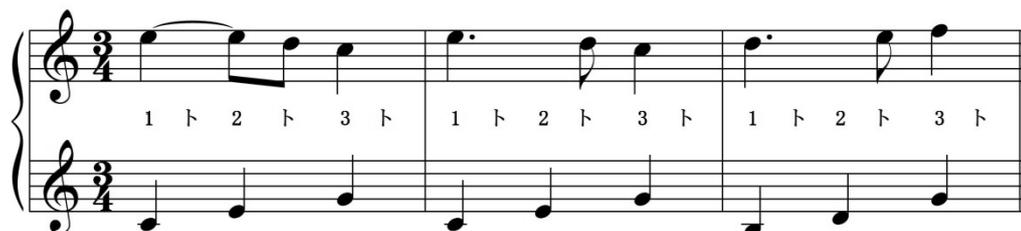
譜例 1

2. No. 48 について

3/4拍子の曲。付点4分音符(1拍半)の長さや数え方を理解させるために，1ト2トのように1拍

を2等分して数えさせる事も多い。(譜例1)

譜例 1



弾き歌いの伴奏では、「ぞうさん」や「たき火」、動きを促す曲では「ライオンの大行進」でメロディー部分に付点4分音符が現れる。

3. No. 52 について

6/8 拍子の曲。8分音符が1小節に6個入る拍子であるが、8分音符を3個ずつまとめて大きく2拍子とも感じられる。また、左手はI→Vの分散和音で動き続ける。(譜例1)

譜例 1



弾き歌いの課題曲には8分の6拍子の曲はなく、実際に弾かれる曲の中でも圧倒的に4拍子の曲が多いが、「思い出のアルバム」「ありがとうさようなら」などの曲で横への揺れや流れを感じる練習として有効と考える。

4. No.53・No.54 について

4分音符が1小節に2個入る2/4拍子。この2曲はリズム的には左右反転しているだけでも言え、No.48での数え方を応用し、8分休符と8分音符の混じったリズムを弾く練習ができる。

演奏で注意すべき点は、休符の部分は鍵盤から指を離す事で、そのためには手首や腕の動きも意識しなければならない。左右の手の動きがずれる事を苦手を感じる学生も多いので、動きのズレに対応する訓練にもなる。(譜例1-a 1-b)

譜例 1-a



譜例 1-b



弾き歌いの伴奏では、「ぞうさん」の右手に、小節の頭に休符のある形が出てくる。(譜例2)

譜例 2



5. No.55 について

アルベルティバス伴奏形の練習曲である。左手にポジション移動があり、指広げがスムーズにできるよう繰り返し練習することが必要である。(譜例1)

譜例 1

弾き歌いの伴奏では、オクターブ跳躍をはじめとするポジション移動のある「とんぼのめがね」、また「たなばたさま」のアルペジオをスムーズに弾く為にこの練習が有効である。

6. No.59 について

8分音符を1拍として数える3/8拍子である。5~8, 12~15, 23~24小節にかけて、< > (クレッシェンド、ディミニユエンド) が書かれており、自然な流れで強弱をつけるようにする。17小節目から右手にアクセント(印のついた音を強く弾く)が現れる。左手は23~24小節のオクターブ移動、ト音・ヘ音譜表の読み替え、16小節目に1箇所ある休符に注意する。

弾き歌いの伴奏では、「蜜蜂のマーチ」「たきび」の<>のスムーズな強弱や「ぞうさん」「ありさんのおはなし」の3拍子リズム、「やきいもグーチーパー」のアクセント部分などで、この練習が役立つ。

7. No.60 について

ポリフォニー(対位法)の曲。完全なるカノンではない。ABAの3部形式でAはイ短調、Bはハ長調である。最初と最後のイ短調左手は全く同じだがト音記号(譜例1-a)ヘ音記号(譜例1-b)で書かれてあり、ヘ音記号へのスムーズな読みかえの習得が不可欠である。また、右手の休符や、左手のアクセント(譜例1-c)にも注意を払いたい。また、強弱記号(cresc. dim.)が初めてイタリア語により記されている。(譜例○部分)

譜例 1-a

譜例 1-b

譜例 1-c

弾き歌いの伴奏においては、「たきび」「しゃぼんだま」で両手のバランスを美しく表現する練習にもなり、「たきび」では前奏が左右ともにト音記号、歌部分からは右手ト音記号、左手ヘ音記号になるので、この曲でしっかりト音記号とヘ音記号の読み替えを習得させたい。

8. No.61 について

調号がなくハ長調の楽譜であるが、実際はト長調の曲である。(譜例1) 右手と左手の音が離れているので注意し、両手のリズムの組み合わせが正確に合うよう気を付けることが必要である。また、発想用語の dolce(柔らかく)が初めて登場する。

譜例 1

動きを促す曲として、ト長調の「蜜蜂のマーチ」「スウェーデンマーチ」「RUN」の左手ポジションが分散で出現し、和音をつかむ練習や調へ慣れる事に役立つ。

9. No.62 について

右手は第 1,2,3,4,5 指、左手は第 5,4,3,2,1 指と順次進行でレガートに美しく弾く練習で、両手ともにメロディーがエコーになっておりオクターブ、それ以上の跳躍がある。(譜例 1-a, 譜例 1-b) ト音記号・ヘ音記号の読みかえがあり、鍵盤移動の練習をしっかりとすることが必要である。

譜例 1-a

譜例 1-b

弾き歌い伴奏においては、16分音符の音階が出てくる「どんぐりころころ」の右手、左手部分。左手に幅広い跳躍がありその練習にもなる。また動きを促す曲では、左手の和音跳躍が続く「ライオンの大行進」の練習になる。

10. No.65 について

ハ長調、主音ドから 1 オクターブ上のドまでをなめらかに弾くための指使いを習得する練習。この曲で初めて 1 の指を他の指の下にくぐらせて弾く指使いが登場する。(譜例 1)

譜例 1

弾き歌いの伴奏では、「やきいもグーチーパー」や「たきび」で出てくる典型的なハ長調の音階のメロディーをスムーズに弾くことができる。また、音階の指使いを覚えることにより、新しく勉強する曲でも自分で指使いを考えることが出来るようになる。

11. No.66 について

右手のメロディーに 4 度、5 度、6 度の異なる音程の跳躍が繰り返し現れるため、自然と各音程に

対しての指の広げ方を覚え、毎回鍵盤に目を落とさずに手の感覚で弾けるようになる。(譜例1)

譜例 1

動きを促す曲としての「RUN」では1小節ごとに違った音程の跳躍を演奏しなければならないが、手の感覚で音程をとらえることが出来ていれば演奏出来る。(譜例2)

譜例 2

12. No.75 について

ニ長調の音階を理解し、単純な順次進行の音型だけでなく、跳躍進行を含む複雑な音型を練習することにより、色々な指の動きや、ニ長調の和声感を習得するための曲である。調号に#が書かれているので、練習時には、FとCの音符に#を書き足さずに演奏することが重要である。

弾き歌いの伴奏では「しゃぼん玉」がニ長調の曲である。右手、左手交互に、あるいは同時に、複雑な音型を演奏する時、調号に書かれた#を見落とさずに演奏出来るようになる。

13. No.76 について

右手に単旋律のメロディーに加え、3度、6度の和音を伴ったメロディーが表れる。(譜例1) ポジション移動(譜例2)も多く難易度が高い練習曲であるが、メロディーを単旋律でなく和音で演奏することも出来るということを知り、様々な演奏効果や可能性を習得することが出来る。

譜例 1

譜例 2

弾き歌いの伴奏では「とんぼのめがね」の前奏で3度、6度の和音が現れる。(譜例3)

譜例 3

14. No.78 について

ト長調の曲であるが、中間部は属調のニ長調に転調し、後半はト長調に戻り終止する。曲の途中で

転調した時、音色や表現方法に変化を付けなければならない。和声やメロディーに対してイメージを膨らませ表現を工夫する練習になる。

動きを促す曲の「RUN」では中間部が属調に転調する。楽譜上の調号や拍子は変わらないが、調の変化に気付き、音色や表現方法を工夫することに応用できる。

15. No.81 について

左手で奏されるワルツのリズム上に、音階（譜例 1-a）・付点（譜例 1-b）・連打（譜例 1-c）等を含む複雑なメロディを正確に右手で演奏することが求められる。イ長調から中間部でニ長調に転調する為、調号・転調の確認を行うことが出来る。（譜例 1-d）更に弱起の学習も出来る。（譜例○部分）

譜例 1-a 譜例 1-b 譜例 1-a 譜例 1-c 譜例 1-d

弾き歌い伴奏では「ありさんのおはなし」動きを促す曲においては「スウェーデンマーチ」で、指くぐり・指またぎの奏法を用いる箇所が現れる。また、譜例 1-c の同じ音を違った指で打鍵する同音連打の奏法は「RUN」の素早い連打に対応する力をつけることが出来る。

16. No.88 について

転回ターンの音型を付点を用いて演奏する曲である（譜例 1-a 右手パート）。また結尾部には長いスケールが現れる。（譜例 1-b）左手パートの 2 声の表記法、奏法についても学習することが出来る。（譜例 1-a 左手パート）さらに、強弱記号ではピアノシモが現れる。

譜例 1-a 譜例 1-b

付点 8 分音符と 16 分音符を組み合わせたリズムはスキップの動きに合わせた曲に用いられることが多く、「夜が明けた」がそれにあたる。また、弾き歌いの伴奏では「おべんとう」「やきいもグーチーパー」「しゃぼんだま」等、童謡でも用いられることが多い。

17. No.91 について

16 分音符を主とした練習曲である。5 度の音域を順に進むフレーズは 5 指の違いを認識させ（譜例 1-a）、音程や進行方向において不規則な動きをもつフレーズはそれぞれの指を強化するトレーニングになる。（譜例 1-b）左手パートのバスの保持も小指の強化につながる。

譜例 1-a 譜例 1-b

弾き歌いの伴奏では、16分音符の素早い動きが「どんぐりころころ」や「しゃぼんだま」の後奏部分にみられる。また、小指のバスの保持は「とんぼのめがね」に現れている。

18. No.94 について

シンコペーションを使用したメロディーに、16分音符の速い伴奏が組み合わされている。左右の音域がおよそ2オクターブ離れていることから、高音の読譜に慣れることが求められる。バイエル必修曲の中では初めてのヘ長調の曲であり、ここでも結尾に音階が現れる。

童謡必修曲の中でヘ長調は3曲となっている。よく使用される調であるので、94番を通じてbの調号に対応する力を身につけることが必要である。その他、シンコペーションは「とんぼのめがね」「どんぐりころころ」に、高音域の演奏は「ありさんのおはなし」「たきび」に現れる。

19. No.95 について

6度の重音を連打する練習曲である。右手パートの軽やかな連打と、左手パートの滑らかなベース進行は、動きが交互に現れる掛け合いの型になっている。(譜例1) 右手と左手が異なるタイミングとタッチで演奏することが要求されているため、二手の動きを分離する訓練であるといえる。

譜例 1



左右を違ったタッチとタイミングで演奏する訓練は、右手で歌パート、左手で伴奏を演奏する「片手伴奏」を上達させるうえで非常に有効である。特に、「どんぐりころころ」(譜例2)等にみられるような、歌のフレーズとフレーズの間に見える「合いの手」を習得する際の良い練習になるであろう。

譜例 2

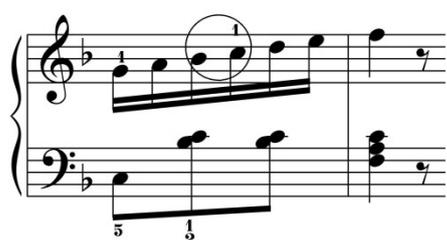


20. No.96 について

ヘ長調からハ長調へと転調し、再びヘ長調へ帰結するABA形式の練習曲である。右手に黒鍵(Bb)を含む指くぐり、左手に跳躍の伴奏(譜例1)、という少し難しいフレーズを弾きこなさなければならない。また、中間部では、右手でC→G7→Cと続く和音の伴奏、左手でハ長調の音階からなる旋律を弾くという、左右の役割を入れ変えて演奏する練習にもなっている。

弾き歌いの伴奏では「ありさんのおはなし」の左手伴奏、右手指くぐりの部分も現れる。(譜例2)

譜例 1



譜例 2



21. No.97 について

右手は3度の和音を弾き、左手は小指を保持しながら3度や4度の和音を弾く練習。右手の指を $3 \rightarrow 4 \rightarrow 5$ と動かす和音は、隣り合った指を交互に動かし、弾かない指を鍵盤から引き上げなければならない。また、左手も5の指を保持したまま2と4の指を鍵盤から十分に引き上げて1と3の指だけを鳴らす必要がある。

弾き歌いの伴奏では「とんぼのめがね」の冒頭部分の右手は、この曲と同じ運指 $3 \rightarrow 2$ の3度の和音。また、左手の伴奏は、5の指を保持しない形で「ありさんのおはなし」や「やきいもグーチーパー」、動きを促す曲では「RUN」でも現れる。

22. No.101 について

両手共に16分音符で1から5の指を隣り合った順番に使って弾く練習。ハ長調でわかりやすい曲だが、片手が連続の16分音符、もう一方の手が4分音符、2分音符、全音符と、長さの違う音を当ててあるので、音符の長さを確認する練習にもなる。右手には、次の小節へスムーズに進むための指使いがなされており、また4と5の指を広げる練習にもなっている。(譜例1)

弾き歌いの伴奏では左手の分散和音を使った伴奏形が多く、「しゃぼんだま」にもこの形が見られる。(譜例2)

譜例 1

譜例 2

23. No.103 について

No.101の左手の伴奏形を4分の1の音価(4分音符→16分音符)にして3拍子にした練習曲。ABA形式で1箇所だけ右手に指くぐりがある。A→Bへのつなぎとして、左手の16分音符1音鳴らしてから右手の16分音符に均一な速さで進む部分がある(譜例1)。

弾き歌いの伴奏では、前述の譜例1のような同じ音価の連続を左右で分けて弾く部分は、譜例2-a、2-bのように「どんぐりころころ」でもみられる。また、この曲は、ハ長調であり臨時記号もなく主要3和音のみで構成されているので、C、F、Gの和音を理解するのに適している。

譜例 1

譜例 2-a

譜例 2-b

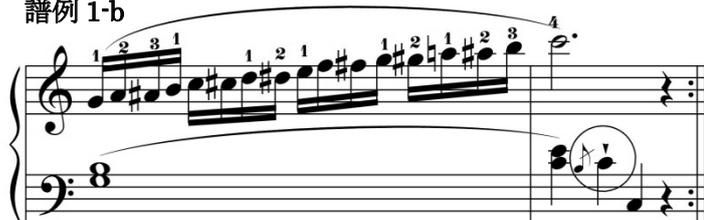
24. No.105 について

右手に半音階を多用した練習曲。半音階は、16分音符で5音連続して指を12345と順番に使うものと(譜例1-a)、黒鍵に2や3の指をあてて半音階で1オクターブ半16分音符のまま上行していくもの(譜例1-b)と、2種類ある。半音階は、指を狭く使わなければならない。また、左手は、97番と同様、5の指を保持したまま1と3の指で和音をならす伴奏形。バイエル必修曲の中では最後の最も難しい曲。

譜例 1-a

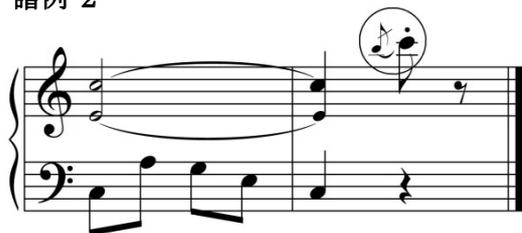


譜例 1-b



弾き歌いの伴奏では、最後の小節の左手に現れる前打音（譜例 1-b 左手○部分）が「とんぼのめがね」の最後の小節（譜例 2）、また、「ありさんのおはなし」のつなぎ部分（譜例 3）など、効果的に用いられることがあるので、ここで前打音の奏法をしっかりと習得しておくといよい。

譜例 2



譜例 3



25. No.46 について

右手が C から G までの音階、左手は小指のポジションが変化するため、指使いを十分意識した練習が必要である。主となるリズムは 8 分音譜、2 分音符、4 分音符とで構成されており、両手とも音価を均等に弾かなければならない。

弾き歌いの伴奏では、左手の伴奏型が「とんぼのめがね」の伴奏型で 8 分音符として応用される。

26. No.49 について

4 小節で 1 フレーズとなり、ABA の曲の構成となる。3 拍子であるこの曲は、強拍は 1 拍目であり、まず、左手だけで強拍と弱拍を弾き分ける練習が必要である。伴奏型は I → V → I, IV → I の分散和音となるが、分散させずに和音で捉えて弾くと和声の移り変わりを理解しやすくなる。右手は C から G までの音域で動き、同じポジションで運指を行う練習になる。

弾き歌いの伴奏では、左手の伴奏型が I と IV を使用する「手をたたきましょう」、I, IV, V を使用する「蜜蜂のマーチ」の和音進行と共通する。また、右手の下降する音階は「どんぐりころころ」の右手に現れる。

27. No.50 について

No.49 と同じく ABA の曲の構成となる。特筆すべきは右手の 2 度の音程の繰り返しの運指である。指番号 3-4 で隣り合った 2 度の音程を弾くことは難しく練習を要する。左手は分散和音になっており、ハーモニーの理解を深める為に和音で捉えて弾くことも有効な練習方法である。

弾き歌いの伴奏では、2 度、3 度の音程を 8 分音符で弾く「とんぼのめがね」で No.50 の繰り返しの運指が活用される。また左手の伴奏も 4 分音符と 8 分音符を使用して応用することができる。

28. No.51 について

曲の構成は ABA。特徴は右手だけでなく左手にも動きのある音型が出現することである。B の部分は左手の 8 分音符で動く為、AB と分けて片手ずつ練習する必要がある。

A の右手は 8 分音符の動きで、3 度下降する音型になっており（譜例 1）、正確な指使いで弾くことで 3 度の幅を的確に捉えることができる。

弾き歌いの伴奏では、右手が様々な音程で動く形が「とんぼのめがね」旋律部分で確認出来る。（譜

例 2) また左手の 5 度の音程で動く 8 分音符の刻みも確認出来る。

譜例 1

譜例 2

29. No.80 について

この曲はニ長調から始まりト長調への転調を含める。前打音を用いること、右手の強拍が 8 分休符であること、右手が左手を超えて交差し転調を含むことからバイエルの中でも高度な技術を要する。また、広い音域を使った楽曲のため最短距離の移動と準備が必要であり、鍵盤の幅を感覚で掴む訓練にもなる。

また、臨時記号、表情記号、ディナーミクの指示が多いため細やかな読譜力を要する。この曲の前打音の奏法は主音符を演奏するタイミングと拍の頭が一致する。

弾き歌いの伴奏で、調性が「こいのぼり」「手をたたきましょう」「しゃぼんだま」と同じニ長調であることから#の音を理解し対応することができる。))

また転調してト長調に移るが、「蜜蜂マーチ」「RUN」も同じト長調であることが確認出来る。拍子の点から観察すると「こいのぼり」と同じ 3 拍子である。3 拍子における強拍、弱拍を理解し対応することができる。また *leggiero* の楽語の持つニュアンスを「RUN」の表情で応用することができる。

30. No.100 について

3/8 拍子、ヘ長調。中間部でハ長調に転調する ABA+コーダで構成される。右手メロディーに前打音 (No.80)、運指 12345 の順次進行 (No.62)、黒鍵を含む下降音階における指またぎと単音連打 (No.81)、左手にはバスを保持しながらの分散和音 (No.88,91) と 3 度重音の連打 (No.97)、左右の腕を交差させての演奏 (No.80) など、既出の様々な要素が用いられている。スタカート、アクセント共に 2 段階の弾き分けが必要である。テンポの指示は *Allegro* (快速に)。演奏者は 1 小節を 1 拍と意識し、4 小節で 1 フレーズとして軽快に演奏しなくてはならない。ピアノ初心者にとって、多種多様な要素を速いテンポで奏することは相当な困難を伴う。このため No.100 は「余裕のある場合に与える曲」に分類されており、同じ *Allegro* の指示がある「必修曲」は、25 曲中 No.96 の 1 曲のみである。

以上、すべてのバイエル必修曲について、童謡と動きを促す曲のどの部分の演奏に練習効果があるかを検証してきた。その着眼点をまとめて記述すると、【音階とその演奏に伴う指使いについて】10 回、【主要三和音、分散和音など左手の伴奏法について】10 回、【付点音符の演奏について】7 回、【ト長調、ニ長調など調性について】6 回、【五線譜の読譜について】5 回、【3 拍子・8 分の 6 拍子について】4 回、【曲想記号について】4 回、【3 度・6 度の和音奏法について】3 回、前打音の演奏法・オクターブの演奏法・両手の音バランスについてが、それぞれ 1 回であった。

取り上げられた童謡と動きを促す曲を記述回数の多い曲から順に並べると、9 回「とんぼのめがね」、7 回「RUN」、6 回「ありさんのおはなし」「どんぐりころころ」「しゃぼんだま」、5 回「たきび」、4 回「やきいもグーチーパー」「蜜蜂のマーチ」、3 回「手をたたきましょう」「ぞうさん」、2 回「こいのぼり」「スウェーデンマーチ」「ライオンの大行進」、1 回「おべんとう」「たなばたさま」「夜が明け

た」であった。必修曲の中に8分の6拍子の曲がなかったことから、「思い出のアルバム」「ありがとうさよなら」がそれぞれ1回使用されている。記述回数の多い上位6曲「とんぼのめがね」「RUN」「ありさんのおはなし」「どんぐりころころ」「しゃぼんだま」「たきび」は、バイエルの練習が効果的であるとする箇所が多い。しかし、諸々の考察より、ピアノ初心者が演奏するには難しい曲であるといえよう。

IV おわりに

今回取り上げたバイエルピアノ教則本は、ピアノ初心者第1冊めの教科書である。五線譜上の音符を読譜し曲として演奏する最低限の知識と手の動きを習得することに終始し、強弱やアクセントなどイタリア語での曲想記号が表示されていても、それを表現するまでには至っていない学生も多く存在する。バイエルピアノ教則本の次の教科書であるブルグミュラー25の練習曲は、それぞれの曲は1～2ページと短いながら、その中には非常に多くの曲想記号が指示されており音楽的表現への第一歩となる重要な教科書である。初心者レベルでありながら、通常使用するほとんどの曲想記号が使われており、この本を練習することにより音楽の曲想標語の常識を取得できるであろう。

弾き歌いにおいて、演奏者が「ピアノ伴奏をやっとの思いで弾いている」状態では、充分といえない。余裕を持って伴奏しつつ自らの歌声を重ねることで、魅力ある指導、保育が可能となる。初心者であってもより高い技能を身につけなくてはならず、そのためにはバイエルピアノ教則本の次のレベルである「ブルグミュラー25の練習曲」の習得が必須であろう。

注・引用文献

- (1) 石田清子「バイエル教則本の課題曲選定の考え方と習得到達度について」『愛知江南短期大学紀要』第37号, 2008, p.75
- (2) 福井真裕子・別所ユウキ「保育者養成校におけるピアノ指導教材に関する一考察～B ツィーグラのピアノ教本に着目して～」『京都聖母女学院短期大学紀要』第43号, 2014, p.82
- (3) 宮脇長谷子「保育者養成校におけるピアノ指導の現状と課題 ～養成校へのアンケート調査を通して～」『静岡県立大学短期大学部研究紀要』第15号, 2001, p.7

参考文献

- (1) 尾見敦子「＜移動ト唱法＞による読譜力育成の授業実践」『全国大学音楽教育学会研究紀要』第22号, 2011, pp.21-26
- (2) 奥田昌代「音楽教育におけるeラーニングの利用効果について～伴奏付け指導における効果についての調査研究を通して～」『全国大学音楽教育学会研究紀要』第24号, 2013, pp.1-10